

阿佐ヶ谷美術専門学校同窓会  
2003年度第6回常任幹事会議事録

●日時  
2004年1月31日(土) 15:00~17:00

●場所  
阿佐ヶ谷美術専門学校 521号室

●出席者  
秋元圭一 [会長]  
土橋洋一 [常任幹事]  
西田一成 [常任幹事]  
日野 高 [副会長]  
渡部征明 [常任幹事]  
松岡和彦 [常任幹事]  
浜村圭一 [常任幹事]  
三浦嘉久 [常任幹事]  
小山 弘 [常任幹事]  
中島かおる [常任幹事]  
大村政幸 [幹事]

●委任欠席  
浅見 博 (→西田氏)  
菊池 満 (→西田氏)  
甲斐光省 (→秋元氏)  
川島昭作 (→西田氏)  
角谷祥子  
岸 明美 (→西田氏)  
藤原成理 (→松岡氏)  
日下真理 (→松岡氏)

常任幹事出席者10名  
委任欠席者9名  
定足数成立

●議事進行  
議長・進行/小山 弘  
●書記/大村政幸

●議題  
議題1/  
総会&パーティーの精算

議題2/  
選挙と会則検討について

議題3/  
その他  
・卒業制作展における同窓会賞について  
・同窓生・在校生支援委員会より提案

次回日程

## 議題1/総会&パーティーの精算

議長の小山氏から経費報告が行われ、会議終了後に経費の精算がなされた。

## 議題2/選挙と会則検討について

●会則検討 担当の甲斐氏が不在の為、保留とした。

### ●選挙について

担当の三浦氏による、選挙進行(スケジュール案)についての説明と状況報告が行われた。「選挙人名簿の提出、被選挙人名簿の提出、同窓会印鑑の提出については進行中。学校側にも協力をお願いしている。スケジュールについては3月5日の投票締切りから、13日の開票までの期間が空きすぎという意見がある為、開票当日着分を有効にするか、余裕を持たせて3月の9日から10日の消印有効にするかを検討中。開票後に投票結果は報告します。また、同数票の処理方法については会長の判断に委ねるのはどうか?」との提案があり、会長の秋元氏から「この会で承認されれば、前回と同様に私の判断で決めた順に連絡して、承諾してもらえるかを確認する」と述べた。「(三浦)前回と同じ方法で良いか承認をとりたい。他に方法がある方は聞かせてほしい」という要望に対して「(中島)例年だと若い人の参加を希望という事ですが、今までそれで問題はなかった」「(松岡)会長判断の論拠を示して頂き、決をとればよい」「(秋元)前回は同数票だった事はなく、当選後の意思確認の際に辞退したいという人が出て、票数の次点順に意思確認をとって決定できた。その時は若い人からという事を考慮しなくて済んだ状態だった。ただ、同数票の人のどちらに声をかけるかという場合、若い人から順に声をかけさせてもらおうと思う」「(三浦)同学年で同数の場合は?」「(秋元)同学年の場合、両方に連絡して事情説明し、話し合って選出する」「(松岡)去年の例でイメージクリエイション科のように0票の時は、年齢より経験で決定するのか?」「(秋元)経験及び同窓会に対する認知度等を優先したい」「(松岡)科別投票について議題にするのはいつ頃か?」「(秋元)会則検討委員会で話し合ってもらい、来期に常任幹事会に選挙方法などを議題として提案してほしい。今回の選挙方法は前年と同じにしたい」と意見が交され、議長が「0票の時は経験を優先とし、投票の処理方法は会長判断により決定で良いか?」と挙手を求め、全会一致で承認された。

### ●長期欠席の常任幹事の選挙への対処

中島氏は長期欠席の常任幹事の選挙参加を、今後どのように対処するか会長に説明を求めた。「(秋元)メールか郵送で委任状を送っていても、一度も返信を頂けない方々がいる。今回は継続の方にはいないが、改選の対象者にはなっている。解釈を広げて会議に出席していない方の意思確認をしなければならぬとなると状況は変わってくる。そのため、事前の意思確認の必要はないと判断している」「(三浦)返信のない方達が再当選した場合の意思確認はするのか?」「(秋元)今までは、『辞退したい場合は意思表示をして下さい』との通告に対する当選者からの返信がない場合は、常任幹事として承諾してくれたものと判断していた。今回は返信のない方が再当選しても意思表示があるとも思えないので、こちらから確認作業をしたいと思う」と述べた。

### ●研究科の選挙参加について

再び中島氏から「研究科の方は選挙の対象にならないのか?」との質問に対し「(秋元)人数も増えてきているし、来期には研究科の方も入った選挙に変えなければと思っている」「(松岡)研究科の方の会費は徴収しているのか?」「(秋元)研究科に入った時にとっていると思う」「(松岡)それでは入れないとまずい」「(秋元)現実に、研究科を卒業された方の中から幹事を選出してもらっている。現状の選挙方法で研究科を一枠にするには人数が少ないので扱いが保留中だ。来期には全体の見直しも含めて方法論を検討して行きたい」「(松岡)その対象の研究科の方は阿佐美卒業生も含まれるのか?」「(秋元)学校側でも初めの頃は正確に把握出来なかった。現状では阿佐美卒業時点の状況が優先で、外から研究科に入って卒業した人は別のブロックという流れにしている」「(土橋)以前、外からの研究科の人から同窓会に入れてほしいと要望があり、そういう場合どうするか?」「(中島)学校側の研究科のポジションが変わって来ている」などの意見後、3年制卒業後の研究科の人は、会費が2重払いになる恐れがあるという事と、研究科と卒業生の区分けの不明さに対し論議が続いた。ここで「(秋元)選挙に関しては前回と同様に行う」と一度まとめに入り「(秋元)もう一度きちんとした整理が必要だ。何年に卒業したかの判断なので、[卒業年度]と[阿佐美卒業]の明記が必要。それが無いとその都度メンバーの照合が必要になってしまう」「(渡部)一刻も早く学校側の名簿と照合が必要」「(西田)通常会員=阿佐ヶ谷美術専門学校卒業生とあり、何科であるかは謳っていないので、会則に研究科の項目を新たに加えなくても問題ない」などの意見後「(秋元)同窓会の人数に研究科のみの人も入っているの、今後、どういう形で組み込ませていくか、会則委員会の中で検討が必要。それと、去年の総会&パーティーの出欠をメールで問合せた時、中退したのになぜこんなメールが来るか?という問合せがあり、そのような場合は、各人が説明しておいてほしい」と述べた。

その他に渡部氏からデータベース作成に関する案件として「データ作成の予算は学校側に計上しているか？」との質問があり「(秋元)データベース作成に関する予算としては計上していない。業者を頼むにしても、同窓会から学校に対して働き掛けたい。学校側の雛型に、同窓会からの要望を付け加えてもらう際の費用などを予算立てしておくか、お金が発生した段階で次年度に組み込むか、現実を見ながらの検討になっていくと思う」「(渡部)予算が発生する可能性があるならば、学校側へのアプローチが必要な時期に来ているのでは？」と意見交換が行われ「(土橋)3年に一度くらい更新と確認をし、両方で使える名簿作りが必要」「(秋元)学校側と同窓会側の窓口を開設して双方で把握し、できる限りデータを合わせていかなければならない」とまとめられた。

### 議題3/その他

#### ●卒業制作展における同窓会賞について

小山氏より、今年度の卒展への同窓会賞を誰がどう判断していくかの検討が求められた。秋元氏が「数日前に松岡氏と渡部氏から、花を贈るのはどうかという提案がありましたが、前年同様に個人に賞金を渡すという予算立てがありましたので、今回は昨年と同じにと考えている。選出についても、今年度は各科バラバラの期間と場所ということもあり、同窓会独自の判断ではなく、前年同様に先生から推薦してもらいます。次年度は予算立てとして計上しても、卒展の在り方など見えてきた早い段階で、今回のような形にするのか、会場に花を贈って同窓会をアピールしていくかなどを検討したい」と述べ、他の意見を求めた。「(浜村)制作にかかった金額をあげたい」「(松岡)賞をあげるという事は特定の人にしか還元しないという事になるので、その辺をどう理解するかという問題で、前にはパーティーの方で還元としてお金を出したと思う」「(秋元)賞とパーティーの両方にお金を出した。去年と今年はそう予算立てしている」「(渡部)年度の初めに賞とパーティーに予算をとっているという事なのでいいと思うが、来年度に関しては、会場に花を贈るという方が全体に還元できるし、終始一貫していると思う」「(秋元)来年度は渡部氏から予算立てを説明してもらい、その形に変更して行きたい」と述べた。

その他の意見として「(西田)我々同窓会が見ないまま贈っていいかという疑問もあり、社会から見たものの見方という事もあるので、偏見があっても自分たちの目を見た方がよいと思う。ただ、分担で見た場合、どうやって突き合わせするかという問題が残る。それと、推薦のお願いは各科の先生に書面でお渡しした方がよい」「(浜村)インターネットとかで選出する方法はないか」「前に『同窓会賞』とかいた紙を貼ったが、学生側からやめてくれと学校にクレームがあった経緯がある」などの意見があった。

#### ●同窓生・在校生支援委員会より提案

渡部氏から来年度の話として「小宮山氏にも相談し、同窓会による定期的なセミナーを確立したい」と述べ、配布された計画案の説明をした。「(渡部)ホームページから受け付けが出来るような仕組みにしたい。その他に意見等をお聞かせ願いたい」との要望があり、意見交換がなされた。「(松岡)同窓生に還元するという観点から、今回の計画案に限って言うと、アサビの講師がいないという点が気になるので、卒業生の方を中心として講師に迎えたセミナーはどうか」「(秋元)例えば、DTPの環境などをテーマとし、アドビの方々を招く事はできるか」「(渡部)企業の広報力を使うという事ですか?」「(秋元)企業等とのドッキングとなると、多少趣旨がずれると思うが、他の人の参加も増えるかもしれない」「(西田)演説者に対し交通費など一律の予算を組んだ方がよい。この計画案の内容で言うと、常任幹事会でやっていくか小宮山氏に任せるとかという問題があり、幹事不在にならないように常任幹事が人選して行く形が良い」「(土橋)例えば、発光体により蛍光灯がいなくなる事など、世の中の産業構造が変わって来るなかで、情報と現実の実務的な事を両方踏まえた、先を見据えたセミナーで在校生や同窓生に情報を共有し、問題提起して行けるものになれば」「(渡部)他業種の選別は難しいが、作戦として興味のあるものを持ってくるのも一つの手段かと思う」「(秋元)学校の施設を使っただけのスタートになると思うので、学生にとって魅力があり、授業で教えられる範囲を少し超えている内容・テーマの設定が望ましい。同窓生のいないセミナーになると講師の方にも失礼なので、同窓生にも同業で興味のあるセミナーになればよい」等の意見を受けて「(渡部)常任幹事会を外向きにする為にも、同窓会組織の中で、セミナーを独立・事業化させたい」と述べた。

#### ●事業計画と予算について

最後に「(秋元)次の会議で、現状の担当者をベースとした、次年度の事業計画と概算の予算の検討をしたいので、提示できるものを小山氏にメールしておいてほしい」「(西田)提示期日をメールで配信してください」との提案後「(秋元)今のことを念頭に、用意しておいて下さい」と述べ、「(中島)次年度も選挙のやり方は同じとしておくことでよいか」との質問に「(秋元)はい。各委員会・プロジェクトとともに、予算が大幅に必要な場合、補正という形をとるので現状をベースに考えてください」と答えた。

### 次回日程

3月27日(土)15:00～の幹事会日時の確認をして議会は閉会した。

#### ●議事録

書記/大村政幸

校正・制作・文責/秋元圭一・小山 弘